

米国リート・プレミアムファンド (毎月分配型) 通貨プレミアム・コース

運用報告書（全体版）（第24作成期）

第137期（2024年2月20日） 第140期（2024年5月20日）
第138期（2024年3月21日） 第141期（2024年6月20日）
第139期（2024年4月22日） 第142期（2024年7月22日）

◆当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／不動産投信（リート）	
信託期間	2012年8月31日から2025年4月21日まで	
運用方針	安定した配当収入の確保と中長期的な値上がり益の獲得を目指して運用を行います。	
主要運用対象	外国投資信託証券である「UBSユニバーサル・トラスト（ケイマン）II-USリート・プレミアムファンド（通貨プレミアム・クラス）」および親投資信託である「T&Dマネーブルマザーファンド」を主要投資対象とします。なお、短期金融商品等に直接投資する場合があります。	
	UBSユニバーサル・トラスト（ケイマン）II-USリート・プレミアムファンド（通貨プレミアム・クラス）	主として担保付スワップ取引を投資対象とし、当該取引を通じて、実質的に、iシェアーズ 米国不動産ETFと米国リート・オプション取引に加えて、為替オプション取引の投資成果と、安定した配当収入の確保と中長期的な値上がり益の獲得を目指して運用を行います。
	T&Dマネーブルマザーファンド	わが国の公社債および短期金融商品を主要投資対象とします。
組入制限	投資信託証券への投資割合には制限を設けません。株式への直接投資は行いません。外貨建資産への直接投資は行いません。	
分配方針	毎決算時（毎月20日、休業日の場合は翌営業日）に分配を行います。ただし、必ず分配を行うものではありません。分配金額は、分配対象額の範囲内で委託会社が決定するものとし、原則として、インカム収益を中心に分配を行うことを目指します。ただし、基準価額水準等によっては、売買益（評価益を含みます。）が中心となる場合があります。	

お客様へ

毎々格別のお引立てにあずかり厚く御礼申し上げます。

さて、「米国リート・プレミアムファンド（毎月分配型）通貨プレミアム・コース」は、2024年7月22日に第142期決算を行いましたので、第137期から第142期の運用状況をご報告申し上げます。

今後ともより一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

 T&Dアセットマネジメント株式会社

〒108-0014 東京都港区芝5-36-7

お問い合わせ先

投信営業部 03-6722-4810

（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

<https://www.tdasset.co.jp/>

最近5作成期の運用実績、基準価額の推移等

最近5作成期の運用実績

決算期	基準価額			債 組 入 比 率	債 先 物 比 率	U ニ バ ー サ ル ・ ト ラ ス ト (ケ イ マ ン) Ⅱ - U S リ ー ト ・ プ レ ミ ア ム フ ア ン ド (通 貨 プ レ ミ ア ム ・ ク ラ ス) 組 入 比 率	純 資 産 額	
	(分配落)	税込み 分配金	期 中 騰 落 率					
	円	円	%	%	%	%	百万円	
第20 作 成 期	113期 (2022年2月21日)	1,989	35	△ 3.8	—	—	97.7	5,342
	114期 (2022年3月22日)	2,072	35	5.9	—	—	97.9	5,381
	115期 (2022年4月20日)	2,156	35	5.7	—	—	98.6	5,433
	116期 (2022年5月20日)	1,831	35	△13.5	—	—	98.0	4,665
	117期 (2022年6月20日)	1,767	35	△ 1.6	—	—	97.8	4,722
	118期 (2022年7月20日)	1,899	35	9.5	—	—	97.9	5,192
第21 作 成 期	119期 (2022年8月22日)	1,943	35	4.2	—	—	98.2	5,301
	120期 (2022年9月20日)	1,784	35	△ 6.4	—	—	97.8	5,029
	121期 (2022年10月20日)	1,600	35	△ 8.4	—	—	98.0	4,473
	122期 (2022年11月21日)	1,622	25	2.9	—	—	97.6	4,592
	123期 (2022年12月20日)	1,536	25	△ 3.8	—	—	98.7	4,195
	124期 (2023年1月20日)	1,511	25	0.0	—	—	98.3	4,097
第22 作 成 期	125期 (2023年2月20日)	1,554	25	4.5	—	—	97.6	4,143
	126期 (2023年3月20日)	1,368	25	△10.4	—	—	98.0	3,666
	127期 (2023年4月20日)	1,430	25	6.4	—	—	98.1	3,687
	128期 (2023年5月22日)	1,409	25	0.3	—	—	98.1	3,505
	129期 (2023年6月20日)	1,460	25	5.4	—	—	97.9	3,708
第23 作 成 期	130期 (2023年7月20日)	1,447	25	0.8	—	—	97.9	3,741
	131期 (2023年8月21日)	1,366	25	△ 3.9	—	—	97.9	3,589
	132期 (2023年9月20日)	1,381	25	2.9	—	—	98.3	3,572
	133期 (2023年10月20日)	1,254	25	△ 7.4	—	—	97.9	3,277
	134期 (2023年11月20日)	1,299	25	5.6	—	—	97.9	3,393
	135期 (2023年12月20日)	1,280	25	0.5	—	—	97.9	3,326
	136期 (2024年1月22日)	1,255	25	0.0	—	—	97.7	3,272
第24 作 成 期	137期 (2024年2月20日)	1,235	25	0.4	—	—	97.9	3,240
	138期 (2024年3月21日)	1,237	25	2.2	0.4	—	98.0	3,207
	139期 (2024年4月22日)	1,145	25	△ 5.4	0.4	—	97.7	3,024
	140期 (2024年5月20日)	1,163	25	3.8	0.4	—	97.8	3,110
	141期 (2024年6月20日)	1,155	25	1.5	0.4	—	97.9	3,124
	142期 (2024年7月22日)	1,148	25	1.6	0.4	—	97.9	3,115

(注) 基準価額および分配金は1万円当たり。基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 当ファンドは親投資信託を組入れますので、債券組入比率および債券先物比率は実質比率を記載しております。

(注) 先物比率=買建比率-売建比率

(注) 当ファンドは米国リートとオプション取引を組合わせた運用を行っており、比較対象として適切な指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

当作成期中の基準価額等の推移

決算期	年 月 日	基 準 価 額		債 組 入 比 率	債 先 物 比 率	U B S ユニバーサル・ トラスト(ケイマン) II-USリート・ プレミアムファンド (通貨プレミアム・ クラス)組入比率
		円	騰 落 率			
第137期	期 首 (前期末) 2024年 1 月22日	1,255	—	—	—	97.7
	1 月末	1,249	△0.5	—	—	97.9
	期 末 2024年 2 月20日	1,260	0.4	—	—	97.9
第138期	期 首 (前期末) 2024年 2 月20日	1,235	—	—	—	97.9
	2 月末	1,250	1.2	—	—	98.3
	期 末 2024年 3 月21日	1,262	2.2	0.4	—	98.0
第139期	期 首 (前期末) 2024年 3 月21日	1,237	—	0.4	—	98.0
	3 月末	1,263	2.1	0.4	—	97.8
	期 末 2024年 4 月22日	1,170	△5.4	0.4	—	97.7
第140期	期 首 (前期末) 2024年 4 月22日	1,145	—	0.4	—	97.7
	4 月末	1,164	1.7	0.4	—	97.9
	期 末 2024年 5 月20日	1,188	3.8	0.4	—	97.8
第141期	期 首 (前期末) 2024年 5 月20日	1,163	—	0.4	—	97.8
	5 月末	1,147	△1.4	0.4	—	98.0
	期 末 2024年 6 月20日	1,180	1.5	0.4	—	97.9
第142期	期 首 (前期末) 2024年 6 月20日	1,155	—	0.4	—	97.9
	6 月末	1,164	0.8	0.4	—	98.1
	期 末 2024年 7 月22日	1,173	1.6	0.4	—	97.9

(注) 基準価額は1万円当たり。期末基準価額は分配金込み。騰落率は期首比。

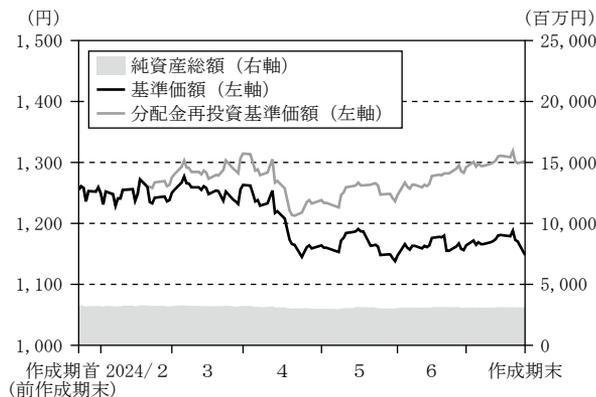
(注) 当ファンドは親投資信託を組入れますので、債券組入比率および債券先物比率は実質比率を記載しております。

(注) 先物比率＝買建比率－売建比率

(注) 当ファンドは米国リートとオプション取引を合わせた運用を行っており、比較対象として適切な指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

当作成期の運用状況と今後の運用方針

■ 基準価額等の推移



第137期首：1,255円

第142期末：1,148円（既払分配金150円）

騰落率：3.7%（分配金再投資ベース）

（注）分配金再投資基準価額は、作成期首（2024年1月22日）の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

（注）分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

（注）分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

■ 基準価額の主な変動要因

高位に組入れている「UBSユニバーサル・トラスト（ケイマン）II-USリート・プレミアムファンド（通貨プレミアム・クラス）」において、主に米ドル円為替の変動と米国リート価格の上昇がプラス寄与した結果、基準価額（分配金再投資ベース）は上昇しました。

■ 組入ファンドの当作成期中の騰落率

組入ファンド	騰落率
UBSユニバーサル・トラスト（ケイマン）II-USリート・プレミアムファンド（通貨プレミアム・クラス）	4.5%
T&Dマネーブルマザーファンド	0.0

■ 投資環境

【米国リート市場】

米国リート市場は上昇しました。作成期初から2024年3月上旬にかけては、2023年10-12月期の米GDP（国内総生産）改定値が下方修正されたことなどから早期利下げ期待が高まり、同市場は上昇しました。3月中旬から5月中旬にかけては、3月の米CPI（消費者物価指数）が市場予想を上回り、利下げ開始が遅れるとの見方が一段と強まったことや、中東情勢への警戒感からリスク回避姿勢が強まり同市場は下落しましたが、その後中東情勢への過度な警戒感が後退したことや、4月の米CPIが市場予想を下回ったことから値を戻す展開となりました。5月下旬には、5月の米PMI（購買担当者景気指数）が市場予想を上回り同市場は下落しましたが、月末に発表された4月の米PCE（個人消費支出）が市場予想通りであったことが好感され、値を戻す展開となりました。6月から7月上旬にかけてはほぼ横ばいで推移した後、作成期末にかけては、6月の米CPIの伸びが鈍化し、市場予想を下回ったことから利下げ期待が強まり、同市場は上昇しました。

【為替動向】

米ドルは対円で上昇しました。作成期初から2024年2月末にかけては、堅調な米国経済により米国の利下げ開始時期の見方は後ろずれてきており、日米の金利差が開いた状態が継続し、米ドルは対円で上昇しました。3月中旬にかけては、3月の日銀の金融政策決定会合で金融緩和政策の解除観測が高まり、米ドルは対円で下落しました。その後、金融緩和の解除が決定されましたが概ね想定通りであり、先行きの政策金利についての明確なガイダンスは見られなかったことから、米ドルは対円で上昇しました。4月中旬にかけ横ばいで推移し、4月下旬から5月初めにかけては、日銀が4月の金融政策決定会合において政策金利の据え置き決定したことから米ドルは対円で上昇しましたが、日銀が円買い介入に踏み切った可能性が意識され、若干調整しました。5月中旬から7月上旬にかけては、5月の米雇用統計が市場予想を上回ったことや日銀の金融政策決定会合がハト派の内容であったと受け止められたことなどから、米ドルは対円で上昇しました。7月中旬から作成期末にかけては、6月の米CPIが市場予想を下回ったことや日銀による円買い介入実施の可能性が高まったことから、米ドルは対円で下落しました。

【国内短期金融市場】

国庫短期証券3ヵ月物利回りは、作成期首の Δ 0.19%から作成期末は0.02%となりました。作成期中においては、日銀によるマイナス金利解除や国庫短期証券の入札に伴う需給悪化懸念などが金利上昇要因となり、日銀の買入オペや金融機関の担保需要などが金利低下要因となりました。

■ 当該投資信託のポートフォリオ

【当ファンド】

作成期を通じて、「UBSユニバーサル・トラスト（ケイマン）II－USリート・プレミアムファンド（通貨プレミアム・クラス）」を概ね高位に組入れ、「T&Dマネープールマザーファンド」にも投資を行いました。

【UBSユニバーサル・トラスト（ケイマン）II－USリート・プレミアムファンド（通貨プレミアム・クラス）】

主としてクレディ・スイス・インターナショナルを相手方とする担保付スワップ取引を高位に組入れ、当該取引を通じて実質的に、iシェアーズ 米国不動産ETFと米国リート・オプション取引に加えて、為替オプション取引の投資成果の享受を目指す運用を行いました。

【T&Dマネープールマザーファンド】

国庫短期証券の利回りがマイナスで推移していたため組入れを見送っていましたが、2024年3月中旬に利回りがプラスとなった国庫短期証券を60%程度組入れました。残りの資産については、全額コール・ローン等で運用を行いました。

* iShares® (iシェアーズ®) はブラックロックの登録商標です。ブラックロックは「米国リート・プレミアムファンド（毎月分配型）通貨プレミアム・コース」について出資、発行、保証、販売および販売の促進をするものではありません。またブラックロックは、「米国リート・プレミアムファンド（毎月分配型）通貨プレミアム・コース」への投資についてなんら意見を表明、あるいは保証するものではなく、ファンドにかかる業務、営業、トレーディングおよび販売に関して、一切責任を負うものではありません。

■ 当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドはベンチマークおよび参考指数がないため、本項目は記載しておりません。

■ 分配金

1万口当たりの分配金（税込み）は分配可能額、基準価額水準等を勘案し、第137期から第142期まで各25円とさせていただきます。収益分配に充てなかった利益は、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

■ 今後の運用方針

【当ファンド】

「UBSユニバーサル・トラスト（ケイマン）II-USリート・プレミアムファンド（通貨プレミアム・クラス）」の組入比率を高位に保ち、もう一方の投資対象である「T&Dマネープールマザーファンド」への投資も継続する方針です。

【UBSユニバーサル・トラスト（ケイマン）II-USリート・プレミアムファンド（通貨プレミアム・クラス）】

担保付スワップ取引を通じて、実質的にiシェアーズ 米国不動産ETFへの投資と米国リートのコールオプションの売却を行い、安定した配当収入の確保と値上がり益の獲得を目指します。加えて、当クラスでは比較的短期の米ドル・円のコールオプションの売却も行い、為替オプション取引の投資成果も享受することを目指します。

【T&Dマネープールマザーファンド】

日本経済は、雇用・所得環境が改善する下で緩やかな回復が続くことが期待されます。インフレ率については、プラス圏で推移していくと予想されます。こうしたなか、日銀はマイナス金利政策の解除を行いました。依然として緩和的な姿勢を示しており、国内金利は低位で推移すると予想します。

相対的に金利リスクの高い長期債への投資は見送り、国庫短期証券や短期金融商品等を中心とした安定的な運用を行います。

1万口当たりの費用明細 (2024年1月23日から2024年7月22日まで)

費用の明細

項目	第137期～第142期		項目の概要
	2024/1/23～2024/7/22		
	金額	比率	
平均基準価額	1,206円		作成期間の平均基準価額です。
(a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社) (受託会社)	8円 (3) (5) (0)	0.673% (0.219) (0.438) (0.016)	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価 運用財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料 (投資信託証券)	0 (0)	0.032 (0.032)	(b) 売買委託手数料＝作成期間の売買委託手数料／作成期間の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) その他費用 (監査費用)	0 (0)	0.008 (0.008)	(c) その他費用＝作成期間のその他費用／作成期間の平均受益権口数 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合計	8	0.713	

(注) 作成期間の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

なお、その他費用は、当ファンドが組入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 平均基準価額の円未満は切捨て、それ以外の各金額は項目ごとに四捨五入してあります。

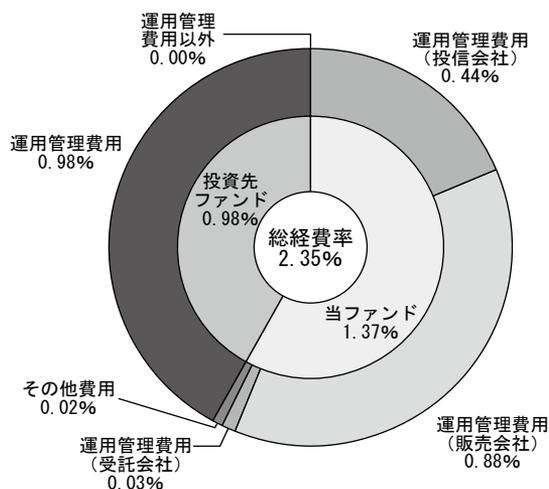
(注) 各項目の費用は、当ファンドが組入れている投資信託証券(親投資信託を除く。)が支払った費用を含みません。

(注) 「比率」欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を作成期中の平均受益権口数に作成期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率)は、2.35%です。



総経費率 (①+②+③)	2.35%
①当ファンドの費用の比率	1.37%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.98%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.00%

(注) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組入れている投資信託証券(親投資信託を除く)です。

(注) ①の費用は、親投資信託が支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

売買および取引の状況 (2024年1月23日から2024年7月22日まで)

(1) 投資信託証券

		第 137 期 ~ 第 142 期			
		買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
		口	千円	口	千円
外国 (邦貨建)	UBSユニバーサル・トラスト(ケイマン)Ⅱ-USリート・プレミアムファンド(通貨プレミアム・クラス)	362,693	426,000	274,644	330,005

(注) 金額は受渡代金。単位未满是切捨て。

(2) 親投資信託受益証券の設定、解約状況

当作成期における設定、解約はありません。

利害関係人との取引状況等 (2024年1月23日から2024年7月22日まで)

当作成期における利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

組入資産の明細 (2024年7月22日現在)

(1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	前作成期末 (第136期末)	当 作 成 期 末 (第 142 期 末)		
	口 数	口 数	評 価 額	比 率
UBSユニバーサル・トラスト (ケイマン) II-USリート・プレミアムファンド (通貨プレミアム・クラス)	口 2,548,718	口 2,636,767	千円 3,048,840	% 97.9

(注) 比率は純資産総額に対する評価額の比率。

(注) 口数・評価額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

種 類	前 作 成 期 末 (第 136 期 末)	当 作 成 期 末 (第 142 期 末)	
	口 数	口 数	評 価 額
T & D マネープールマザーファンド	千口 19,809	千口 19,809	千円 20,075

(注) T & D マネープールマザーファンド全体の受益権口数は242,596千口です。

(注) 単位未満は切捨て。

投資信託財産の構成 (2024年7月22日現在)

項 目	当 作 成 期 末 (第 142 期 末)	
	評 価 額	比 率
UBSユニバーサル・トラスト (ケイマン) II-USリート・プレミアムファンド (通貨プレミアム・クラス)	千円 3,048,840	% 94.3
T & D マネープールマザーファンド	20,075	0.6
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	163,065	5.1
投 資 信 託 財 産 総 額	3,231,980	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

資産、負債、元本および基準価額ならびに損益の状況

資産、負債、元本および基準価額の状況

2024年2月20日現在 2024年3月21日現在 2024年4月22日現在 2024年5月20日現在 2024年6月20日現在 2024年7月22日現在

項 目	第137期末	第138期末	第139期末	第140期末	第141期末	第142期末
(A) 資産	3,346,612,043円	3,323,381,660円	3,131,162,847円	3,233,505,768円	3,232,288,763円	3,231,980,608円
コーラル・ローン等	153,414,875	161,545,793	156,239,627	170,223,969	153,416,583	163,064,145
UBSユニバーサル・トラスト(ケイマン)						
II-U.S.リート・プレミアムファンド(通貨プレミアム・クラス)(評価額)	3,173,123,913	3,141,762,389	2,954,849,744	3,043,208,304	3,058,796,720	3,048,840,993
T&Dマネーボールマザーファンド(評価額)	20,073,255	20,073,255	20,073,255	20,073,255	20,075,236	20,075,236
未収利息	-	223	221	240	224	234
(B) 負債	105,648,878	115,913,197	106,504,789	123,206,492	107,442,791	116,898,784
未払金	36,000,000	43,000,000	35,000,000	38,000,000	35,000,000	42,000,000
未払収益分配金	65,583,451	64,813,308	66,064,337	66,851,920	67,666,359	67,826,570
未払解約金	562,048	4,481,585	1,660,959	15,156,561	1,193,013	3,344,291
未払信託報酬	3,463,746	3,577,594	3,736,972	3,162,029	3,543,103	3,685,979
未払利息	-	-	-	-	-	-
その他未払費用	39,415	40,710	42,521	35,982	40,316	41,944
(C) 純資産総額(A-B)	3,240,963,165	3,207,468,463	3,024,658,058	3,110,299,276	3,124,845,972	3,115,081,824
元本	26,233,380,402	25,925,323,228	26,425,735,117	26,740,768,113	27,066,543,779	27,130,628,058
次期繰越損益金	△22,992,417,237	△22,717,854,765	△23,401,077,059	△23,630,468,837	△23,941,697,807	△24,015,546,234
(D) 受益権総口数	26,233,380,402口	25,925,323,228口	26,425,735,117口	26,740,768,113口	27,066,543,779口	27,130,628,058口
1口当たり基準価額(C/D)	1,235円	1,237円	1,145円	1,163円	1,155円	1,148円

(注) 当ファンドの第137期首元本額は26,064,865,059円、第137～142期中追加設定元本額は6,644,521,093円、第137～142期中一部解約元本額は5,578,758,094円です。

(注) 元本の欠損

第142期末現在、純資産総額は元本を下回っており、その差額は24,015,546,234円です。

(注) 第142期末の1口当たり純資産額は0.1148円です。

損益の状況

自2024年1月23日 自2024年2月21日 自2024年3月22日 自2024年4月23日 自2024年5月21日 自2024年6月21日
至2024年2月20日 至2024年3月21日 至2024年4月22日 至2024年5月20日 至2024年6月20日 至2024年7月22日

項 目	第137期	第138期	第139期	第140期	第141期	第142期
(A) 配当等収益	62,755,562円	62,605,668円	62,182,317円	62,786,133円	64,703,213円	64,431,267円
受取配当金	62,758,500	62,607,415	62,178,869	62,782,744	64,699,774	64,428,104
受取利息	-	223	3,448	3,389	3,439	3,163
支払利息	△ 2,938	△ 1,970	-	-	-	-
(B) 有価証券売買損益	△ 46,096,162	9,137,900	△ 231,794,414	51,796,492	△ 16,521,165	△ 11,432,509
売買取引益	678,743	9,564,220	519,724	53,089,306	691,195	478,142
売買取引損	△ 46,774,905	△ 426,320	△ 232,314,138	△ 1,292,814	△ 17,212,360	△ 11,910,651
(C) 信託報酬等	△ 3,503,161	△ 3,618,304	△ 3,779,493	△ 3,198,011	△ 3,583,419	△ 3,727,923
(D) 当期損益金(A+B+C)	13,156,239	68,125,264	△ 173,391,590	111,384,614	44,598,629	49,270,835
(E) 前期繰越損益金	△ 3,089,764,122	△ 3,013,087,150	△ 2,928,893,603	△ 3,022,089,370	△ 2,861,784,001	△ 2,773,422,055
(F) 追加信託差損益金(配当等相当額)	△19,850,225,903	△19,708,079,571	△20,232,727,529	△20,652,912,161	△21,056,846,076	△21,223,568,444
(G) 合計(D+E+F)	(2,971,822,208)	(2,932,051,064)	(2,985,611,730)	(3,016,145,555)	(3,048,364,894)	(3,051,012,121)
(H) 収益分配金(売買取引相当額)	(△22,822,048,111)	(△22,640,130,635)	(△23,218,339,259)	(△23,669,057,716)	(△24,105,210,970)	(△24,274,580,565)
(I) 繰越損益金(G+H)	△22,992,417,237	△22,717,854,765	△23,401,077,059	△23,630,468,837	△23,941,697,807	△24,015,546,234
追加信託差損益金(配当等相当額)	(2,965,491,158)	(2,926,686,092)	(2,977,950,217)	(3,010,327,258)	(3,041,818,329)	(3,043,888,895)
(売買取引相当額)	(△22,822,048,111)	(△22,640,130,635)	(△23,218,339,259)	(△23,669,057,716)	(△24,105,210,970)	(△24,274,580,565)
繰越損益金	△ 3,135,860,284	△ 3,004,410,222	△ 3,160,688,017	△ 2,971,738,379	△ 2,878,305,166	△ 2,784,854,564

(注) 損益の状況の中で

(B)有価証券売買損益は、各期末の評価換えによるものを含みます。

(C)信託報酬等には、信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差引いた差額分をいいます。

分配金の計算過程

【第137期】

計算期間末における費用控除後の配当等収益（59,252,401円）、費用控除後の有価証券売買等損益（0円）および収益調整金（2,971,822,208円）より、分配対象収益は3,031,074,609円（1万円当たり1,155円）であり、うち65,583,451円（1万円当たり25円）を分配金額としております。

【第138期】

計算期間末における費用控除後の配当等収益（59,448,336円）、費用控除後の有価証券売買等損益（0円）および収益調整金（2,932,051,064円）より、分配対象収益は2,991,499,400円（1万円当たり1,153円）であり、うち64,813,308円（1万円当たり25円）を分配金額としております。

【第139期】

計算期間末における費用控除後の配当等収益（58,402,824円）、費用控除後の有価証券売買等損益（0円）および収益調整金（2,985,611,730円）より、分配対象収益は3,044,014,554円（1万円当たり1,151円）であり、うち66,064,337円（1万円当たり25円）を分配金額としております。

【第140期】

計算期間末における費用控除後の配当等収益（61,033,623円）、費用控除後の有価証券売買等損益（0円）および収益調整金（3,016,145,555円）より、分配対象収益は3,077,179,178円（1万円当たり1,150円）であり、うち66,851,920円（1万円当たり25円）を分配金額としております。

【第141期】

計算期間末における費用控除後の配当等収益（61,119,794円）、費用控除後の有価証券売買等損益（0円）および収益調整金（3,048,364,894円）より、分配対象収益は3,109,484,688円（1万円当たり1,148円）であり、うち67,666,359円（1万円当たり25円）を分配金額としております。

【第142期】

計算期間末における費用控除後の配当等収益（60,703,344円）、費用控除後の有価証券売買等損益（0円）および収益調整金（3,051,012,121円）より、分配対象収益は3,111,715,465円（1万円当たり1,146円）であり、うち67,826,570円（1万円当たり25円）を分配金額としております。

分配金のご案内

分配金および分配原資の内訳

（単位：円・％、1万円当たり・税引前）

項目	第137期	第138期	第139期	第140期	第141期	第142期
	2024年1月23日 ～2024年2月20日	2024年2月21日 ～2024年3月21日	2024年3月22日 ～2024年4月22日	2024年4月23日 ～2024年5月20日	2024年5月21日 ～2024年6月20日	2024年6月21日 ～2024年7月22日
当期分配金	25	25	25	25	25	25
（対基準価額比率）	1.984	1.981	2.137	2.104	2.119	2.131
当期の収益	22	22	22	22	22	22
当期の収益以外	2	2	2	2	2	2
翌期繰越分配対象額	1,130	1,128	1,126	1,125	1,123	1,121

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

（注）投資信託の計理上、翌期繰越分配対象額が基準価額を上回っている場合がありますが、基準価額を超える分配金をお支払いすることはありません。

※分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合、分配金は全額普通分配金となります。

※分配前の基準価額が個別元本を上回り、分配後の基準価額が個別元本を下回る場合、分配金は個別元本を上回る部分が普通分配金、下回る部分が元本払戻金（特別分配金）となります。

※分配前の基準価額が個別元本と同額または下回る場合、分配金は全額元本払戻金（特別分配金）となります。

※元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、個別元本から元本払戻金（特別分配金）を控除した額がその後の新たな個別元本となります。

《お知らせ》

2024年3月1日適用で、以下のとおり、投資対象である外国投資信託等の名称変更を行いました。

●変更内容

	変更後	変更前
投資対象である外国投資信託	UBSユニバーサル・トラスト（ケイマン）II-USリート・プレミアムファンド（通貨プレミアム・クラス）	クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）II-USリート・プレミアムファンド（通貨プレミアム・クラス）
外国投資信託の投資顧問会社	UBSマネジメント（ケイマン）リミテッド	クレディ・スイス・マネジメント（ケイマン）リミテッド

補足情報

T&Dマネープールマザーファンドにおける主要な売買銘柄

公社債

2024年1月23日から2024年7月22日まで

買		付		売		付	
銘柄	柄	金額		銘柄	柄	金額	
第1207回国庫短期証券		千円 147,480		—		千円 —	

(注) 金額は受渡代金（経過利子分は含まれておりません）。単位未満は切捨て。

T&Dマネープールマザーファンドの組入資産の明細

下記は、T&Dマネープールマザーファンド全体（242,596千口）の内容です。

公社債

(A) 国内（邦貨建）公社債<種類別>

2024年7月22日現在

区分	額面金額	評価額	組入比率	うちBB格以下組入比率	残存期間別組入比率		
					5年以上	2年以上	2年未満
	千円	千円	%	%	%	%	%
国債証券	147,500 (147,500)	147,488 (147,488)	60.0 (60.0)	— (—)	— (—)	— (—)	60.0 (60.0)
合計	147,500 (147,500)	147,488 (147,488)	60.0 (60.0)	— (—)	— (—)	— (—)	60.0 (60.0)

(注) () 内は非上場債で内書きです。

(注) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(注) 残存期間が1年以内の公社債は原則として償却原価法により評価しています。

(注) 額面・評価額の単位未満は切捨て。

(B) 国内（邦貨建）公社債<銘柄別>

2024年7月22日現在

銘柄	柄	利率	額面金額	評価額	償還年月日
(国債証券)		%	千円	千円	
第1207回国庫短期証券		—	147,500	147,488	2025/1/20
合計			147,500	147,488	

(注) 額面・評価額の単位未満は切捨て。

組入投資信託証券の内容

UBSユニバーサル・トラスト（ケイマン）II－USリート・プレミアムファンド
（円ヘッジ・クラス）／（通貨プレミアム・クラス）

◆当ファンドの仕組みは次の通りです。

分 類	ケイマン籍／外国投資信託／円建
基本運用方針	<p>（円ヘッジ・クラス） 主として担保付スワップ取引を投資対象とし、当該取引を通じて、実質的に、iシェアーズ 米国不動産ETFと米国リート・オプション取引の投資成果と、安定した配当収入の確保と中長期的な値上がり益の獲得を目指して運用を行います。 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行った投資成果の享受を目指します。</p> <p>（通貨プレミアム・クラス） 主として担保付スワップ取引を投資対象とし、当該取引を通じて、実質的に、iシェアーズ 米国不動産ETFと米国リート・オプション取引に加えて、為替オプション取引の投資成果と、安定した配当収入の確保と中長期的な値上がり益の獲得を目指して運用を行います。</p>
投資態度	<p>（円ヘッジ・クラス） ①実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行った投資成果の享受を目指します。 ②原則として、米国リート・オプション取引の実質的な想定元本は、おおむね純資産相当額程度で行うものとします。</p> <p>（通貨プレミアム・クラス） ①実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。 ②原則として、米国リート・オプション取引ならびに為替オプション取引の各々の実質的な想定元本は、それぞれおおむね純資産相当額程度で行うものとします。</p> <p>※資金動向や市況動向等によっては、上記のような運用が行われない場合があります。</p>
主な投資制限	<p>①店頭オプション、上場オプション、ETFに原則として直接投資を行いません。 ②有価証券の空売りは行いません。</p>
分配方針	原則として、毎月分配を行います。
投資顧問会社	UBSマネジメント（ケイマン）リミテッド

※次ページ以降の記載は、組入投資信託証券の関係会社より入手した情報をもとに作成しております。当社は、その内容の正確性・完全性を保証するものではありません。

(1) (2) : バンクオブニューヨークメロン証券株式会社より入手した監査済報告書を、当社が一部和訳したものです。

(3) : ザ・バンク・オブ・ニューヨーク・メロン（シンガポール支店）より入手したデータをもとに作成したものです。

(1) 各クラスの状況

作成基準日：2024年1月31日

	受益権総口数
円ヘッジ・クラス	194,974口
通貨プレミアム・クラス	2,522,528
合計	2,717,502口

(注) 日付は現地基準です。

(2) 損益計算書

計算期間：2023年2月1日～2024年1月31日

単位：円

収益	
手数料収入	852,626,332
担保付スワップ取引に係る純損益	(942,257,901)
投資純損益	(89,631,569)
費用	
運用費用	39,178,729
運用費用合計	39,178,729
分配前の期中の純資産変動	(128,810,298)
支払分配金	(813,447,603)
分配後の期中の純資産変動	(942,257,901)

(注) 日付は現地基準です。

(注) () 書きは負数です。

(3) 組入資産の明細

作成基準日：2024年1月31日

担保付スワップ

単位：円

クラス	想定元本額	評価額
円ヘッジ・クラス	1,949,738,055	348,400,643
通貨プレミアム・クラス	25,225,279,518	3,104,021,096
合計		3,452,421,739

(注) 日付は現地基準です。

T & D マネープールマザーファンド

運用報告書（全体版） 第39期（決算日 2024年6月10日）
（計算期間 2023年12月12日から2024年6月10日）

「T & D マネープールマザーファンド」は、2024年6月10日に第39期決算を行いましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。

◆当ファンドの仕組みは次の通りです。

信託期間	信託期間は原則無期限です。
運用方針	安定した収益の確保を目指して運用を行います。
主要運用対象	わが国の公社債および短期金融商品等を主要投資対象とします。
組入制限	株式への投資は行いません。外貨建資産への投資は行いません。

最近5期の運用実績、基準価額の推移等

最近5期の運用実績

決算期	基準価額		債 組 入 比	券 率	債 先 物 比	券 率	純資産総額
	円	騰落率					
35期（2022年6月10日）	10,143	△0.0	—	—	—	—	百万円 396
36期（2022年12月12日）	10,140	△0.0	—	—	—	—	348
37期（2023年6月12日）	10,138	△0.0	—	—	—	—	237
38期（2023年12月11日）	10,134	△0.0	—	—	—	—	245
39期（2024年6月10日）	10,134	0.0	60.0	—	—	—	245

(注) 基準価額は1万口当たり。

(注) 先物比率＝買建比率－売建比率

(注) 当ファンドは安定した収益の確保を目指すファンドであり、ベンチマークおよび参考指数はありません。

当期中の基準価額等の推移

年 月 日	基 準 価 額 円	騰 落 率	債券組入比率 %	債券先物比率 %
		%		
期首（前期末） 2023年12月11日	10,134	—	—	—
12月末	10,134	0.0	—	—
2024年1月末	10,133	△0.0	—	—
2月末	10,133	△0.0	—	—
3月末	10,133	△0.0	60.0	—
4月末	10,133	△0.0	60.0	—
5月末	10,134	0.0	60.0	—
期 末 2024年6月10日	10,134	0.0	60.0	—

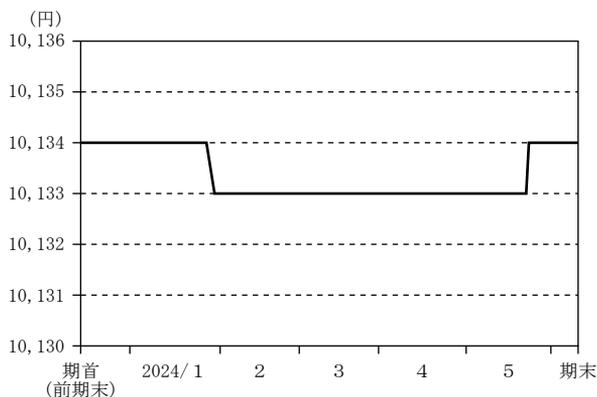
(注) 基準価額は1万円当たり。騰落率は期首比。

(注) 先物比率＝買建比率－売建比率

(注) 当ファンドは安定した収益の確保を目指すファンドであり、ベンチマークおよび参考指数はありません。

当期の運用状況と今後の運用方針

■ 基準価額の推移



■ 基準価額の変動要因

基準価額は、期首、期末ともに10,134円となりました。運用対象である国庫短期証券や短期金融商品等の利回りは、期前半はマイナスで推移しましたが、期後半はプラスでの推移となりました。

■ 投資環境

【国内短期金融市況】

国庫短期証券3ヵ月物利回りは、期首の△0.16%から期末は0.02%となりました。期中においては、日銀によるマイナス金利解除や国庫短期証券の入札に伴う需給悪化懸念などが金利上昇要因となり、日銀の買入オペや金融機関の担保需要などが金利低下要因となりました。

■ 当該投資信託のポートフォリオ

国庫短期証券の利回りがマイナスで推移していたため組入れを見送っていましたが、2024年3月中旬に利回りがプラスとなった国庫短期証券を60%程度組入れました。残りの資産については、全額コール・ローン等で運用を行いました。

■ 当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドはベンチマークおよび参考指数がないため、本項目は記載しておりません。

■ 今後の運用方針

日本経済は、雇用・所得環境が改善する下で緩やかな回復が続くことが期待されます。インフレ率については、プラス圏で推移していくと予想されます。こうしたなか、日銀はマイナス金利政策の解除を行いました。依然として緩和的な姿勢を示しており、国内金利は低位で推移すると予想します。

相対的に金利リスクの高い長期債への投資は見送り、国庫短期証券や短期金融商品等を中心とした安定的な運用を行います。

1万口当たりの費用明細 (2023年12月12日から2024年6月10日まで)

当期において発生した費用はありません。

売買および取引の状況 (2023年12月12日から2024年6月10日まで)

公社債

		買付額	売付額
国内	国債証券	千円 147,480	千円 —

(注) 金額は受渡代金(経過利子分は含まれておりません)。単位未満は切捨て。

主要な売買銘柄 (2023年12月12日から2024年6月10日まで)

公社債

買	付	売	付
銘柄	金額	銘柄	金額
第1207回国庫短期証券	千円 147,480	—	千円 —

(注) 金額は受渡代金(経過利子分は含まれておりません)。単位未満は切捨て。

利害関係人との取引状況等 (2023年12月12日から2024年6月10日まで)

当期における利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

組入資産の明細 (2024年6月10日現在)

下記は、T&Dマネープールマザーファンド全体(242,596千口)の内容です。

公社債

(A) 国内(邦貨建)公社債<種類別>

区 分	当 期				末		
	額 面 金 額	評 価 額	組 入 比 率	うちBB格以下 組 入 比 率	残 存 期 間 別 組 入 比 率		
					5年以上	2年以上	2年未満
	千円	千円	%	%	%	%	%
国 債 証 券	147,500 (147,500)	147,486 (147,486)	60.0 (60.0)	— (—)	— (—)	— (—)	60.0 (60.0)
合 計	147,500 (147,500)	147,486 (147,486)	60.0 (60.0)	— (—)	— (—)	— (—)	60.0 (60.0)

(注) ()内は非上場債で内書きです。

(注) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(注) 残存期間が1年以内の公社債は、原則として償却原価法により評価しております。

(注) 額面・評価額の単位未満は切捨て。

(B) 国内(邦貨建)公社債<銘柄別>

銘 柄	当 期			末
	利 率	額 面 金 額	評 価 額	償 還 年 月 日
(国債証券)	%	千円	千円	
第1207回国庫短期証券	—	147,500	147,486	2025/1/20
合 計		147,500	147,486	

(注) 額面・評価額の単位未満は切捨て。

投資信託財産の構成 (2024年6月10日現在)

項 目	当 期		末
	評 価 額	比 率	
公 社 債	千円	%	
	147,486	60.0	
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	98,352	40.0	
投 資 信 託 財 産 総 額	245,838	100.0	

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

資産、負債、元本および基準価額ならびに損益の状況

資産、負債、元本および基準価額の状況

2024年6月10日現在

項 目	当 期 末
(A) 資 産	245,838,879円
コール・ローン等	98,352,484
公 社 債(評価額)	147,486,252
未 収 利 息	143
(B) 純 資 産 総 額(A)	245,838,879
元 本	242,596,156
次 期 繰 越 損 益 金	3,242,723
(C) 受 益 権 総 口 数	242,596,156口
1 万口当たり基準価額(B/C)	10,134円

(注) 期首元本額 242,596,156円
 期中追加設定元本額 0円
 期中一部解約元本額 0円

(注) 1口当たり純資産額は1,0134円です。

(注) 当マザーファンドを投資対象とする投資信託の当期末元本の内訳

T & D インド中小型株ファンド	69,040,591円
米国リート・プレミアムファンド(毎月分配型)円ヘッジ・コース	1,653,709円
米国リート・プレミアムファンド(毎月分配型)通貨プレミアム・コース	19,809,785円
米国リート・プレミアムファンド(年2回決算型)マネーボール・コース	88,475円
豪州高配当株ツインαファンド(毎月分配型)	22,818,631円
エマージング債券投信(円コース)毎月分配型	5,339,572円
エマージング債券投信(円コース)年2回決算型	1,731,068円
エマージング債券投信(米ドルコース)毎月分配型	6,884,550円
エマージング債券投信(米ドルコース)年2回決算型	1,424,313円
エマージング債券投信(豪ドルコース)毎月分配型	6,489,753円
エマージング債券投信(豪ドルコース)年2回決算型	664,851円
エマージング債券投信(ブラジルリアルコース)毎月分配型	50,273,085円
エマージング債券投信(ブラジルリアルコース)年2回決算型	2,834,026円
エマージング債券投信(南アフリカランドコース)毎月分配型	614,593円
エマージング債券投信(南アフリカランドコース)年2回決算型	131,726円
エマージング債券投信(カナダドルコース)毎月分配型	555,674円
エマージング債券投信(カナダドルコース)年2回決算型	71,774円
エマージング債券投信(メキシコペソコース)毎月分配型	23,292,362円
エマージング債券投信(メキシコペソコース)年2回決算型	3,988,327円
エマージング債券投信(トルコリラコース)毎月分配型	15,489,184円
エマージング債券投信(トルコリラコース)年2回決算型	2,464,915円
エマージング債券投信(金コース)毎月分配型	3,974,765円
エマージング債券投信(金コース)年2回決算型	2,773,196円
エマージング債券投信(マネーボールファンド)年2回決算型	187,231円

損益の状況

当期 自2023年12月12日 至2024年6月10日

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△ 13,787円
受 取 利 息	17,718
支 払 利 息	△ 31,505
(B) 当 期 損 益 金(A)	△ 13,787
(C) 前 期 繰 越 損 益 金	3,256,510
(D) 合 計(B+C)	3,242,723
次 期 繰 越 損 益 金(D)	3,242,723